

出品作家(五十音順)

内田聖良
UCHIDA Seira

佐藤瞭太郎
SATO Ryotaro

柴田まお
SHIBATA Mao

たかはし遼平
TAKAHASHI Ryohei

谷口暁彦
TANIGUCHI Akihiko

トータル・リフューザル
Total Refusal

藤原麻里菜
FUJIWARA Marina

Viewpoints of Reality in the Multi-layered World



INTERCOMMUNICATION CENTER

25th Anniversary

プレス内覧会

2022年12月16日(金)

午後5時-8時

*事前予約不要です。

企画展「多層世界とリアリティのよりどころ」

NTTインターコミュニケーション・センター [ICC] ギャラリーA、ハイパーICC (<https://hyper.ntticc.or.jp/>)

2022年12月17日(土) → 2023年3月5日(日) 11:00am-6:00pm | 入館は閉館の30分前まで

休館日: 月曜日(月曜日が祝休日の場合は翌日)、年末年始(12/26-1/4)、保守点検日(2/12(日))

入場料: 一般 500円(400円)、大学生 400円(300円)「ICC アニュアル 2022」展とのセット券: 一般 800円(700円)、大学生 600円(500円) (事前予約制・当日入場は事前予約者優先)

※()内は15名様以上の団体料金 * 障害者手帳をお持ちの方および付添1名、65歳以上の方と高校生以下、ICC年間パスポートをお持ちの方は無料。

※予約方法の詳細は、後日ICCウェブサイトにてお知らせします。 ※休館日以外においても開館時間の変更および休館の場合があります。

※最新情報はICCのウェブサイト(<https://www.ntticc.or.jp/>)などお知らせします。

主催: NTTインターコミュニケーション・センター [ICC] (東日本電信電話株式会社)

〒163-1404 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー 4階(京王新線初台駅東口から徒歩2分)

お問い合わせ: ☎0120-144199

お問い合わせフォーム: <https://www.ntticc.or.jp/ja/about/visit/contact/>

URL: <https://www.ntticc.or.jp/>

2020年度から始まったオンライン・プラットフォームを活用した展覧会「多層世界」シリーズの3回目となる、企画展「多層世界とリアリティのよりどころ」を開催します。

過去2回の展覧会「多層世界の中のもうひとつのミュージアム」と「多層世界の歩き方」では、現実空間と情報空間の双方から体験する展覧会のあり方を模索し、外出制限の時代とその要請にもとづくこれからの社会において、私たちの意識や感覚にどのような変化があらわれるのかを、メディア・アート作品を中心に構成し、考察を行ないました。

今回は、メタヴァースやミラーワールドといった仮想空間や現実空間をデジタル化した鏡像世界が、いよいよ現実のものとなり、実装されつつある現在、リアルとヴァーチャルが共存する多層世界の中で、変化していくであろう私たちのリアリティのあり方に着目しました。

ICCにおけるリアル展示に加え、一部作品については、オンラインからの体験も可能となっています。

NTTインターコミュニケーション・センター [ICC] は、日本の電話事業100周年(1990年)の記念事業として1997年4月19日、東京／西新宿・東京オペラシティタワーにオープンしたNTT東日本の運営する文化施設です。ICCは「コミュニケーション」というテーマを軸に科学技術と芸術文化の対話を促進し、豊かな未来社会を構想していきます。

多層世界と リアリティの よりどころ

Viewpoints
of Reality
in the Multi-layered
World

出品作家(五十音順)

内田聖良

佐藤瞭太郎

柴田まお

たかはし遼平

谷口暁彦

トータル・リフューザル

藤原麻里菜

キュレーション

畠中実、谷口暁彦

キュレトリアルチーム

指吸保子、鹿島田知也

ハイパー-ICC 共同キュレーション

谷口暁彦

監修・会場デザイン

NOIZ

出品作家および作品

- ★リアル展示
- オンライン展示

内田聖良★●

《バーチャル供養講》2021年-

3Dスキャンされた捨てられない思い出の品々が、それらとの記憶が書かれたテキストとともに奉納された仮想空間の「バーチャル供養堂」をVRで体験する作品です。内田は、「バーチャル供養講」という、ネット上における人々のさまざまな記憶や感情が種々の軌跡を生じ、他人と会うことが禁忌となった時代における、架空の新しい民間信仰を空想し、この作品を制作しました。会場では、供養のあとにペーパークラフト「のりしろさま」を配布し、だれかの思い出の品を持ち帰り、組み立てることができます。また、オンラインでも供養を体験可能です。



内田聖良《バーチャル供養堂》2022年

佐藤瞭太郎★

《All Night》2022年
新作ほか

「アセット」と呼ばれる、既存の3Dモデルだけを用いて制作された3DCG映像作品です。佐藤は、インターネットで収集された大量のアセットを「漂流物」ととらえ、作品の中でそれらのさまざまなキャラクターを並列に扱います。作品はそれぞれ異なる世界から集められたかのようなキャラクターたちが、脈絡なく一堂に会する非現実的な光景を描き出します。キャラクターたちは自分の意志とは無関係に、物語に翻弄されているように見えながら、それらアセットのデータがインターネット上で「移動」しながら「変形」していく様子を表わしています。



佐藤瞭太郎《All Night》2022年

柴田まお★●

《Blue》2020年-



柴田まお《Blue mask》2022年 | 撮影: Hayato Wakabayashi

会場に設置された青色をした彫刻が、映像では、なにもない会場とクロマキー合成され、その形を消滅させてしまう作品です。実体としての彫刻が透明になって、展示会場にある実際の彫刻とは異なる状態で、インターネット配信されます。現実の彫刻の姿は会場に足を運ばないと見ることはできません。彫刻という、一般的には現実空間に形をもった立体物として存在する表現形式が、インターネット以降の環境における、多様な鑑賞環境の中でどのように展開可能かを考えます。

たかはし遼平★●

《並行植物調査》2021年

ゲーム空間における植物のリサーチにもとづいて制作された作品です。本作は、実際に公園や渓谷などを散策して、現実の植物の植栽を撮影し、ゲーム内のヴァーチャルな植物を生やす余地がありそうな場所に、付近の植物と似たような形状の植物をゲーム世界や3Dモデルのアセットから探し、植えるというプロセスで制作されています。たかはしは、現実世界における整備された庭や公園とゲーム世界の植栽の関係をなどを考察し、そこに関連を見出しています。



たかはし遼平《並行植物調査》2021年 | 撮影: 竹久真樹

谷口暁彦★●

《骰子一擲 / a throw of the dice》2018年
新作

かつてどこかで実際にサイコロが落ちた風景を3Dスキャンし、3Dプリントしたオブジェクトと、サイコロの投げるリアルタイム・シミュレーションによる作品です。シミュレーションの中でサイコロが落ちる瞬間、サイコロに重なるように、3Dスキャンされた風景が現れます。風景はサイコロの6つの面それぞれに埋め込まれていて、サイコロの面に応じて表示されます。ここでは、サイコロが6つの異なる時間と場所が保存され、呼び出される記憶装置として見えてきます。



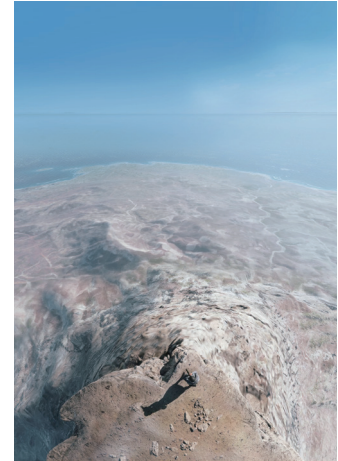
谷口暁彦《骰子一擲 / a throw of the dice》2018年

トータル・リフューザル★

《How to Disappear》2020年

オンライン・シューティング・ゲーム『バトルフィールドV』のプレイ映像を素材として制作された映像作品です。このゲームでは、ゲームがプレイヤーの自由意志によって遊ばれるものだからこそ、戦場から脱走したままプレイを継続することが不可能になっています。この作品では、リアリティを追求して制作された

ビデオゲームの世界では存在を許されず、そして戦争史においてもほとんど光の当てられてこなかった脱走者の歴史が語られます。そしてビデオゲームと現実の戦争を対比しながら、現代のわたしたちにとってのリアリティはどこにあるのかを探っていきます。



Total Refusal《How to Disappear》2020年

藤原麻里菜★

《顔をハメてもその様子を誰も見ることができない顔ハメパネル》2022年
《ZOOMをガチャ切りできる受話器デバイス》2021年
《オンライン飲み会緊急脱出マシン》2020年
など

藤原は、頭の中に浮かんだ不必要なものをなんとか作り上げる「無駄づくり」を主な活動とするコンテンツクリエイターで、これまでに200個以上の不必要なものをYouTubeなどで発表してきました。本展では、その中からコロナ禍の生活でお馴染みとなったオンライン会議ツールを使用する際に、誰もが感じたことのあるささやかな気まずさを解消するための装置や、観光旅行が制限された時期に発想された、観光地におなじみの顔ハメ看板をARで再現しようとしたプロジェクトなどを展示します。



藤原麻里菜《オンライン飲み会緊急脱出マシン》2020年

同時開催の展示

「ICC アニュアル 2022 生命的なものたち」

- ・会期：2022年6月25日(土)～2023年1月15日(日)
- ・会場：NTT インターコミュニケーションセンター [ICC]
ギャラリー B、ハイパー ICC (<https://hyper.ntticc.or.jp/>)
- ・開館時間：午前11時～午後6時
- ・休館日：月曜日(月曜が祝日の場合翌日)、年末年始(12/29-1/4)、保守点検日(2/12[日])
- ・入場料：一般 500円(400円)、大学生 400円(300円)、65歳以上／高校生以下無料
- ・主催：NTT インターコミュニケーションセンター [ICC] (東日本電信電話株式会社)

東京オペラシティアートギャラリーとの相互割引

ICC 受付で、同時期に開催中の東京オペラシティアートギャラリー企画展の入場券をご呈示いただくと、本展に団体料金でご入場いただけます。また東京オペラシティアートギャラリー企画展にご入場の際に、本展入場券をご呈示いただいた場合も、団体料金でご入場いただけます(他の割引との併用不可、ご本人様のみ1回限り有効)。

新型コロナウイルス感染症対策

NTT インターコミュニケーションセンター [ICC] では、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、お客様ならびにスタッフの健康と安全を考慮し、ご来館される全てのお客様に以下の対応のご協力をお願い申し上げます。

下記に該当する方は、ご入館をお断りさせていただきます。

- ・37.5度以上の発熱症状がある方(入館時にサーモカメラ及び、非接触型体温計での体温計測を実施します)。
- ・過去2週間以内に、感染拡大地域や国への渡航をされた方。
- ・発熱、咳、鼻水、倦怠感の症状が続くなど、体調不良の方。
- ・マスクを着用されていない方。

最新情報はICCのウェブサイト(<https://www.ntticc.or.jp/>)などでお知らせします。

広報に関するお問い合わせ

NTT インターコミュニケーションセンター [ICC]

広報担当：赤坂恵美子

TEL：03-5353-0800

FAX：03-5353-0900

お問い合わせフォーム：<https://www.ntticc.or.jp/ja/about/visit/contact/press/>

URL：<https://www.ntticc.or.jp/>